

# 埼玉医科大学病院 地域医療連携ニュース



# No. 8

2020. 新年号

## ごあいさつ

院長補佐 徳山 研一

連携施設の先生方、小児科の徳山研一です。本年もよろしくお願い申し上げます。

近年、診療分野ごとに地域で中心的役割を果たす医療機関を都道府県が拠点病院として指定する動きがあり、当院では以前から肝疾患などが指定されていましたが、最近、アレルギー疾患、てんかん、難病、の3つが相次いで指定されました。

このうち私の関わるアレルギー疾患医療拠点病院事業は、当院のアレルギーセンター（センター長：永田真教授）が担っています。主な事業として、県民を対象としたアレルギー電話相談、医療関係者や一般市民向けの講演会などを実施してきました。また拠点病院ホームページの中に、“医療機関検索”サイト（<http://allergy.saitama-med.ac.jp/hospsearch/>）を開設し、初年度である昨年は小児の食物アレルギー関連の情報検索システムを構築しました。これは、埼玉県内全域における食物経口負荷試験実施可能施設やエピペン処方可能施設などが、知りたい地域をクリックするだけで瞬時にわかるという“優れたもの”です。県疾病対策課と協力し、県医師会のご支援をいただき完成しました。今年度は気管支喘息について同様の検索システムを構築予定ですので先生方におかれましては是非ご活用ください。

拠点病院活動をはじめ、今後とも病院全体で一層の診療体制の充実を図っていく所存ですので、遠慮なくご意見、ご要望などお聞かせください。

※写真中央 徳山 研一先生

## Contents

年頭のごあいさつ…………… 2

ご紹介…………… 3  
難病センター母性内科診療部

診療科のご紹介…………… 4  
皮膚科  
血管外科

新任医師のご紹介…………… 5  
小児科  
麻酔科  
リウマチ膠原病科  
放射線科  
病院長からのエール

第40回埼玉医科大学・連携施設懇談会…………… 7

看護部から…………… 7

提携医療機関から  
西武入間病院…………… 8  
小鹿野中央病院…………… 9

カルナ（インターネット予約システム）のご利用…………… 10

# 謹賀新年 本年もよろしくお祈りいたします。

東京オリンピック・パラリンピックを支援しつつ、地域医療・難病診療の拠点病院として頑張ります。

病院長 織田 弘美

旧年中は大変お世話になりました。

本年も地域医療に貢献出来るよう尽力します。  
宜しくお祈り致します。

院長代理 三村 俊英

患者さんが安心して治療を受けていただけるよう丁寧な対応に努めます。

本年もよろしくお祈りいたします。

副院長・看護部長 鈴木 美香

皆さんと共に、地域の医療を守っていけるよう地域の皆様と頑張っていきます。

本年も宜しく御祈りいたします。

副院長 中元 秀友

地域の先生方にさらに信頼されるよう、連携強化に努めます。本年もどうぞよろしくお祈り致します。

副院長 篠塚 望

患者さんに信頼される、安心して受診できる病院として発展してまいります。本年もどうぞよろしくお祈り申し上げます。

副院長 池園 哲郎

母体合併症から胎児異常、出生前遺伝カウンセリングまで、多彩なご要望に対応いたします。ご相談ください。

院長補佐 亀井 良政

子どもたちのため、安全で、より良い医療を提供できるように本年も微力を尽くします。

院長補佐 徳山 研一

形成外科では今年も難治性創傷の症例数日本一を維持し、より満足度の高い医療を目指して尽力致します。

院長補佐 市岡 滋

新年おめでとうございます。アंकン、震え、顔の痛みや痙攣の手術で今年も日本一の手術成績をめざします。

院長補佐 藤巻 高光

地域医療の拠点として安心できる医療を提供できるように頑張ります。本年もよろしくお祈り致します。

院長補佐 鳥尾 哲矢



## 難病センター 母性内科診療部のご紹介

現在、国の法律（難病法）で規定された難病は合計 333 疾患あります。発症年齢、症状、治療法、予後など極めて多彩であり、原因も単一遺伝子の異常で起こるものから、複数の遺伝子が関与するもの、原因がまだ不明なものなどこちらも多彩です。それ故、これらの疾患全てを一人で診療するような難病医はいません。様々な専門医の連携や多職種の協力によって最適な診療が成り立ちます。当院では、国の新難病医療体制の開始に伴い難病センターを 2015 年 4 月 1 日より開設し、患者さんやご家族、診療施設からの依頼件数は年々増加しています。そして当院の難病診療体制が評価され 2019 年 2 月 1 日には埼玉県から難病診療連携拠点病院の指定を受けました。現在、難病センターは、難病診療部（難病診断、治療、難病相談）、遺伝子診療部（遺伝子診断、遺伝相談・カウンセリング）、患者申出診療部（患者申出療養制度による最新の診療情報提供）、母性内科診療部（妊娠準備、妊娠中、出産前後、授乳など育児関連における難病の管理）の 4 診療部から構成され、外来は東館 2 階に置かれています。

難病センター（東館2F） → 埼玉県難病診療連携拠点病院への指定

1. 難病診療部：三村
2. 遺伝子診療部：大竹、齋藤  
中核科としてゲノム医療科新設（2019.4より）  
（大竹、難波、齋藤）
3. 患者申出療養部：三村、大竹、大野
4. 母性内科診療部：舟久保、三村

今回は 2019 年 10 月に新設された母性内科診療部をご紹介します。患者さんには、病気をかかえながら妊娠や育児ができるか不安な方や、お子さんへのお薬の影響を心配して妊娠中の治療継続を躊躇する方がいらっしゃいます。慢性疾患をもつ方ではそれぞれの疾患が妊娠中に使用可能なお薬でコントロールされており、病勢が安定した状態で妊娠することが望ましいです。母性内科診療部では慢性疾患の治療と妊娠を両立させて、より良い妊娠と出産を目指した内科的管理を行います。妊娠や出産を希望されているまたは妊娠している難病患者さんの診療に関して、遠慮なく当診療部にご相談ください。

埼玉医科大学病院  
難病センター 母性内科診療部

難病センターの母性内科診療部は慢性疾患をもちながら妊娠を希望する女性を、妊娠前から妊娠中、産後まで内科医の立場で管理を行い、より良い状態で妊娠・出産ができるようサポートします。

母性内科は慢性疾患をもつ女性が安心して妊娠と病気の治療を両立できるように計画的な妊娠をすすめ、妊娠前の健康状態を評価し、慢性疾患の治療と薬の調節を行います。また妊娠された場合には、当院の産科医師と連携しながら妊娠中に発症した疾患（妊娠合併症）の内科的管理や妊娠中～授乳中の薬の調節を行います。

妊娠前	妊娠中	産後
<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的な妊娠</li> <li>・妊娠前の健康状態を評価</li> <li>・慢性疾患の治療と薬の調節</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠合併症の治療と管理</li> <li>・慢性疾患に対する薬の調節</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内科的管理</li> <li>・授乳中の薬の調節</li> </ul> 

診療日は火曜日午前で予約制となります。

病気の疾患活動性や臓器病変、合併症のリスク評価や、血圧、耐糖能、骨粗鬆症のチェック、使用薬剤の胎児への安全性について情報提供を行います。母性内科診療部はリウマチ膠原病科の舟久保ゆう医師が担当し、当院の内科、産婦人科、小児科など各科専門医と連携協力して妊娠を希望する患者さんを妊娠前からサポートいたします。

難病センター（東館 2 階）

母性内科診療部

舟久保ゆう（リウマチ膠原病科）

三村 俊英（リウマチ膠原病科 診療部長）

☎：049-276-1741

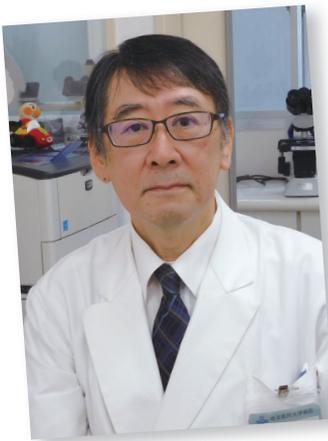


● **皮膚科 教授 中村 晃一郎 (ナカムラ コウイチロウ)**

埼玉医科大学病院皮膚科では皮膚疾患について広く診療を行っております。初代の池田重雄教授が皮膚科で診療を開始されて以来、皮膚腫瘍、とくに悪性黒色腫をはじめとする皮膚悪性腫瘍をおもな診療分野としてきました。現在も、悪性黒色腫、有棘細胞癌、血管肉腫などの悪性腫瘍、色素性母斑など良性腫瘍も含め、幅広い診療をおこなっています。

皮膚疾患は、湿疹、蕁麻疹などの日常的に遭遇する疾患、壊死性筋膜炎、重症薬疹、膠原病、血管炎などの全身性疾患まで多岐にわたり、いずれも適切

な診断と対応が求められます。診療についても通常の外来診療をはじめ、外科的治療、入院による全身管理などさまざまな治療があり当科ではこれらに幅広く対応しています。また当科では、連携病院や地域のクリニックからご紹介いただいた患者さんの受け入れ、また症状の落ち着いた患者さんの逆紹介などを通じて幅広い連携診療を進めております。埼玉県内の多くの患者さんに、信頼いただけるような医療をめざしております。



**診療部長のご挨拶**

皮膚はお子さんからご高齢のかたまでさまざまな病気がみられます。皮膚科の治療法は日々進化しており、従来の投薬や外科的治療の他に、レーザー治療や光線療法、分子標的薬など新しい治療が開発され、その有効性が証明されております。また皮膚科の疾患も時代による変化が見られ、近年はアトピー性皮膚炎をはじめアレルギー疾患が増加しております。いっぽうでは高齢者の皮膚疾患も増えています。当科では常に最近の知見をもとに、患者さんの状態を十分に検討し、最適な治療を提供できるよう努めております。気になる皮膚症状があれば、早めに皮膚科外来を診療していただきたいと思っております。

皮膚科 中村 晃一郎  
外来☎：049-276-1292

**診療科のご紹介**

● **血管外科 教授 松本 春信 (マツモト ハルノブ)**

当院(毛呂)血管外科では、国際医療センター(日高)心臓血管外科と連携をとり、主に腹腔内および四肢の末梢血管疾患(下肢静脈瘤や動脈閉塞症など)を中心に診療し、消化器一般外科の協力のもと、手術・入院診療も行っております。

下肢静脈瘤は、整容的な問題の他、だるさなどの静脈うっ滞症状から、皮膚炎・皮膚潰瘍など症状は様々です。以前はストリッピング手術が標準治療でありましたが、現在は低侵襲である血管内焼灼術が広く普及しており、当院にも導入いたしました。

動脈硬化が原因とされる閉塞性動脈硬化症は近年

増加しております。とくに糖尿病・透析患者さんでは潰瘍・壊疽といった重症例が散見され、「足梗塞」という表現でテレビでも紹介されるほど、広く社会に注目されております。軽症例では、薬物・運動療法を中心とした保存的治療が適応となりますが、重症例では血行再建が必要となります。当科では、足部の末梢動脈への血行再建にも積極的に取り組んでおります。

血管診療の専門医は少なく、日々の診療で判断に困ることも多いと存じます。血管疾患が疑われる症例などございましたら、お気軽にご紹介ください。



**診療部長のご挨拶**

私は、静脈性潰瘍や重症下肢虚血に対する外科治療が専門ですが、それ以外の血管診療全般も行ないます。血管「外科」という名はついておりますが、診断、保存的治療(薬物療法・圧迫療法など)など、内科的な診療も行っております。地域医療に少しでもお役に立てればという思いでおりますので、相談症例などございましたら、ご連絡いただければ幸いです。

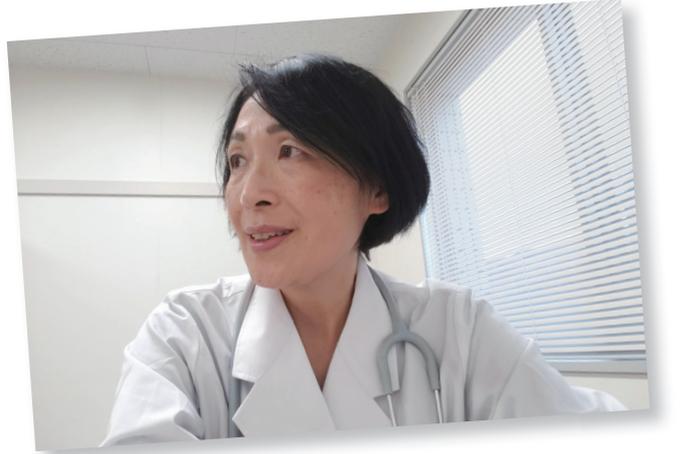
血管外科 松本 春信  
外来☎：049-276-1285

● **小児科 教授 秋岡 祐子 (アキオカ ユウコ)**

2019年7月1日付で埼玉医科大学小児科教授を拝命いたしました。小児腎臓病学を専門としております。私は1987年に東京女子医科大学を卒業し、母校の小児科に入局しました。1994年からは小児腎臓病医をめざして東京女子医科大学腎臓小児科で研鑽を積んでまいりました。学校検尿の事後措置など小児保健に携わるとともに、慢性腎臓病のこどもたちの成長を家族とともに見守ることにやりがいを感じ、思春期・青年期までの慢性腎臓病診療を担当してきました。

2015年10月、小児透析を含めた小児腎臓病診療充実のため当院小児科へ准教授として赴任しました。「小児科医は全身をみるこどもの総合医である」の言葉どおり、小児一般診療を担当するとともに、尿異常、腎機能障害、電解質異常、尿路感染症、水腎症、夜尿症などのご相談を広くお受けしています。また、腎疾患専門診療においては、腎生検による腎病理診断や、急性・慢性腎不全に対する血液・腹膜

透析が実施できるようになり、地域完結型の医療を目指し、患者さんとご家族に喜んでいただける医療に微力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



**新任医師のご紹介**

● **麻酔科 教授 土井 克史 (ドイ カツシ)**

2019年10月1日付けにて埼玉医科大学病院麻酔科教授として着任いたしました土井克史と申します。2010年1月から2012年3月まで埼玉医科大学でお世話になっておりましたが、一旦出身大学の都合にて島根県の国立病院機構浜田医療センターで、麻酔科の立ち上げに従事しておりました。この度は再度の就任となります。

私はこれまで、周術期管理を専門に臨床を行ってきました。その中でも特に硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔、超音波ガイド下末梢神経ブロックなどの区域麻酔の分野における臨床、教育、研究に力を注ぎました。ここ埼玉医大でも手術患者さんは近年高齢化、重症化が進み、手術時間も長時間となり、周術期管理の重要性が増しています。これまでに研鑽した区域麻酔を応用してより安全な麻酔を目指していきたいと思っております。そのほか緩和ケアチームや急変対応チーム(RRT)に所属して、医療スタッフと協力して患者の安全や快適さを目指していました。一麻酔科医として幅広い分野で微力ながら力を発揮したいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

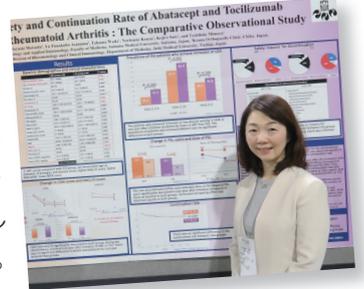


● **リウマチ膠原病科 教授 舟久保 ゆう（フナクボ ユウ）**

2019年10月1日付で埼玉医科大学病院リウマチ膠原病科教授を拝命致しました。私は聖マリアンナ医科大学を卒業し、同大学病院リウマチ・膠原病・アレルギー内科へ入局してから現在まで一貫してリウマチ性疾患の診療、研究、教育に従事してまいりました。2006年に埼玉医科大学へ講師として着任し今日に至っています。

近年はリウマチ性疾患治療薬の進歩がめざましく、日本でも生物学的製剤を初めとした多くの治療薬が登場しました。このような新規治療薬は従来の薬剤と比べものにならないほど優れた効果が期待できますが、一方で重篤な感染症などの副作用もあり、専門医でなければ治療管理が困難な時代になってき

ました。当科では高度な専門治療を提供するとともに、安全で質の高い医療の実践を目指します。また、膠原病を含む慢性疾患の治療と妊娠の両立を目指して、当院難病センターに母性内科診療部を立ち上げました。妊娠前から妊娠中・出産後まで内科的管理を行い、より良い妊娠・出産を目指す体制を確立したいと考えています。今後も円滑に病診連携を進め、リウマチ性疾患に関する最新知識の啓発に努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



**新任医師のご紹介**

● **放射線科 教授 小澤 栄人（コザワ エイト）**

2019年10月1日付けで、埼玉医科大学病院放射線科教授を拝命いたしました。私は、1991年佐賀医科大学を卒業した後に、埼玉医科大学病院放射線科で研修のトレーニングを受けるため入局いたし、それ以来国内留学や海外留学の一時期を除き、



埼玉医科大学あるいは、埼玉医科大学国際医療センターで画像診断医として勤務しておりました。埼玉医科大学放射線科に戻り勤務し始めて3年経ちましたが、

地域の医療の関係者の皆様とは、提携医療機関との間で行っているカルナ予約検査による、CT検査やMR検査の読影に関しての関わりが一番です。埼玉県は、多くの人口を抱えながら、相対的に総合病院の数が多くはなく最先端のCTあるいはMRIの検査を身近な病院で受ける機会が乏しく、微力ながら地域医療の一旦をCTやMRI検査の読影を通じて行い、連携医療が円滑に進むようにその一旦を微力ながら努めていきたいと尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

● **新任医師へ病院長からのエール**

2019年7月1日付で小児科教授に就任された秋岡祐子先生は、腎臓病のみならず小児診療一般を担当してこられました。優しく熱心な指導ぶりは、学生や医局員の絶大な信頼を得ています。今後は、女性医師のリーダーとしてのご活躍を期待しています。

土井克史先生は、10月1日付で麻酔科教授として着任されました。2010年から常勤医として2年余り勤務され、その後も非常勤医として勤務してこられました。専門である区域麻酔を駆使して、高齢者に快適で安全な麻酔を実施して頂けるものと期待しています。

10月1日付でリウマチ膠原病科教授に就任された舟久保ゆう先生は、2006年から、当院の中堅女性医師として活躍してこられました。今後は、難病センター

に新設された母性内科診療部の責任者として、女性患者さんの妊娠・出産の支援に尽力して頂く予定です。

同じく10月1日付で放射線科教授に就任された小澤栄人先生は、初期研修から当院に勤務されている放射科生え抜きの医局員で、国際医療センターの立ち上げにも尽力されました。今後は、腹部画像診断の専門家として、当院のさらなる診療の質向上に貢献して頂けるものと期待しております。



## ● 第40回埼玉医科大学・連携施設懇談会を開催しました

埼玉医科大学は、去る10月16日に川越プリンスホテルにおいて第40回埼玉医科大学・連携施設懇談会（以下、懇談会）を開催致しました。



上條 篤 先生

学術講演では、埼玉医科大学病院耳鼻咽喉科 上條教授に「アレルギー性鼻炎および好酸球性副鼻腔炎の治療戦略」と題した講演をいただきました。

特別講演には、東京女子医科大学 先端生命医学研究所 教授 正宗 賢先生をお招きして「スマート治療室と医工連携」と題して、先端技術による手術の標準化・高度均てん化や未来予測手術による高水準化について解りやすく大変参考になるお話をいただきました。



正宗 賢 先生

懇談会は、先生方との連携を一層深める重要な機会として継続しており、今回で40回を迎え、約450名の参加者のもと盛大に開催することが出来ました。これも先生方のお力添えと感謝致しております。

今後も懇談会にご協力いただきますようお願い申し上げますと共に、先生方の益々のご健勝とご活躍を祈念致します。

埼玉医科大学・連携施設懇談会事務局

## ● 看護部から

埼玉医科大学病院産婦人科外来では、排卵誘発、人工授精、体外受精・顕微受精を含む総合的治療を提供しています。高度生殖医療を提供する埼玉医科大学病院には、不妊症看護認定看護師が1名在籍し、患者さんを支援しています。

2009年から毎週木曜日 13:00～16:00 予約制(1回 3000円)で不妊面談を行っています。今までに不妊面談を受けられた患者さんは、245名になります。埼玉医科大学病院産婦人科外来で不妊治療を受けている患者さんは、他の疾患などを合併している患者さん、他院で不妊治療を受けたが結果が出ずに紹介されてきた患者さん、35歳を過ぎてから妊娠を考えているなど背景は様々ですが、どの患者さんにも不妊治療と仕事の両立の難しさ、不妊治療に対しての夫との温度差、不妊治療を受けていることを誰にも相談できないなど悩みがあり、患者さんに寄り添い、少しでも安心して納得した不妊治療を受けて

頂くために不妊面談を始めました。不妊面談を希望する患者さんの中には、不妊治療中だけではなく、妊娠、出産前後に面談を希望される患者さんもいます。不安が強い患者さんは、話を聞くだけで安心すると言って、7回目の面談を希望された患者さんもいます。

他院で不妊治療を受けられている患者さんで不妊面談を希望される患者さんがいましたら、産婦人科外来 (049-276-1343) にご相談下さい。



# カルナ（インターネット予約システム）の利用

## 提携医療機関・登録医制度について

埼玉医科大病院と地域の医療機関とで、患者に一貫性のある適切な医療を提供するために相互が協力・緊密な医療連携を図ります。

## 提携医療機関・登録医、カルナシステム利用について

### 1. 「提携医療機関・登録医申請届」を提出してください。

▶カルナシステムを利用されたい方は、申請届を提出する際に申し出てください。

申請届をインターネットよりダウンロード

<http://www.saitama-med.ac.jp/hospital/cooperate/system.html>

プリントアウト

必要事項を記入

カルナ利用をご希望の方

郵送または FAX

当院より登録証を送付

※カルナ利用希望の方のみ別途書類を送付いたします。

提携医療機関・登録医 申請届

令和 年 月 日

埼玉医科大学病院

病院長 織田 弘美 殿

私は、埼玉医科大学病院 病診連携システム（提携医療機関・登録医制度）の主旨に賛同し、登録申請いたします。

登録医師名 1 医療機関1名(理事長・院長・所長等を明記)

医療機関名

診療科目名

郵便番号

医療機関所在地

電話番号

FAX 番号

カルナ希望 あり なし (どちらかに○をつけてください)

## 提携医療機関から

### 医療法人明晴会 西武入間病院(入間市)

当院は入間市の西武地区にあり、西武訪問看護事業所・西武居宅介護支援事業所及び分院（西武クリニック）を持ち、24時間体制で在宅診療を行っている地域密着型の内科系病院です。

最近、飯能から毛呂山にバイパスが開通したことにより、当院から埼玉医科大学病院までの所要時間が30分程度となったため、貴院への紹介が特に増えています。その際、カルナシステムのおかげで、時間に関係なく患者様・御家族様と会話しながら予約がスムーズにとれ、大変に助かっています。

また、紹介した患者様のその後の詳しい経過報告をいただくことが多くなり、安心して紹介でき感謝しております。

病院長：野中 晴彦



### 医療機関情報

診療時間：午前 9:00～12:30

午後 14:00～18:00

休診日：木曜日午後・日曜日・祝祭日・

12月30日午後～1月3日



### 2-1. 患者紹介（外来診療予約）について

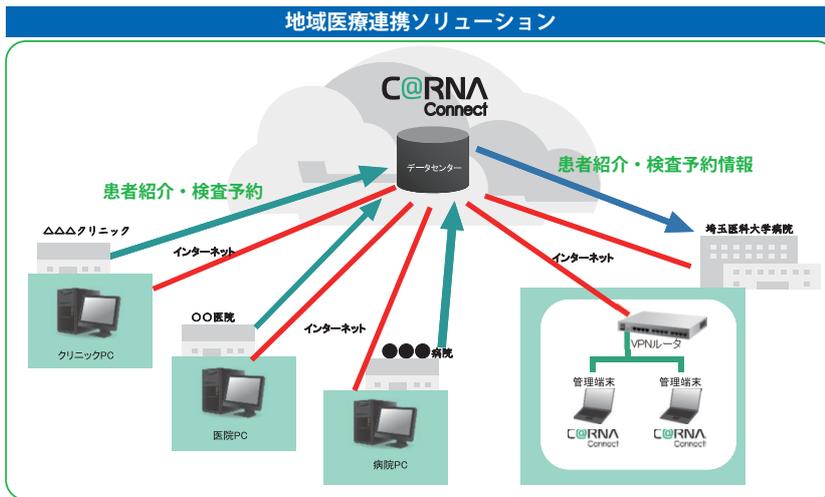
- ① カルナシステムでは、指定の予約枠に入力していただくことで、予約が取得できます。
- ② 患者さんは医務課での初診受付は必要なく、直接診療科外来で受け付け、お待ちいただけます。

### 2-2. 特定の検査の依頼について

- ▶カルナでは、CT 検査、MRI 検査、アイソトープ検査、骨シンチ、心エコー検査、腹部エコー検査などの検査もご利用できます。
- 検査終了後すみやかに、専門医の読影報告書を送付いたします。

### 2-3. 受診報告について

- ▶紹介患者さんが受診後には、報告書を送付させていただきます。



新規カルナ登録医療機関 (R1.8 ~ R1.11)			
広沢内科 クリニック	狭山市	院長	廣澤 信作
イヴデンタル クリニック	東京都 青梅市	院長	上原 渉
大河原森本医院	東京都 青梅市	院長	森本 晋

## 国保町立小鹿野中央病院(小鹿野町)

当院は秩父の奥に位置する小鹿野町の唯一の病院です。隣接する小鹿野町保健課・福祉課や小鹿野訪問看護ステーションのスタッフをはじめとする多くの近隣施設と多職種で連携を取り合い、住み慣れた町で最後まで暮らし続けられるよう、この地域ならではの包括ケアを展開し、緩和ケアにも力を入れています。

診断や治療に難渋するケースでは大学病院に紹介させてもらうことも多く、いつもお世話になっております。カルナシステムは診察予約だけでなく、医師の顔が見え、受診の際の情報をお渡しできることなどとても便利で、よく利用させていただいております。予約枠がもう少し増えるとさらにありがたく思います。今後ともよろしくお祈りいたします。

病院長：内田 望



### 医療機関情報

診療時間：平日・第1土曜日・第3土曜日：午前中  
 （診療科により診療時間が異なるため、詳しくはホームページ、もしくは当院までお問い合わせください（電話：0494-75-2332）。



## 埼玉医科大学 建学の理念

- 第1. 生命への深い愛情と理解と奉仕に生きる  
すぐれた実地臨床医家の育成
- 第2. 自らが考え、求め、努め、以て自らの成長  
を主体的に開展し得る人間の育成
- 第3. 師弟同行の学風の育成

## 埼玉医科大学の期待する医療人像

- 高い倫理観と人間性の涵養
- 国際水準の医学・医療の実践
- 社会的視点に立った調和と協力

## 埼玉医科大学病院の基本理念

当院は、すべての病める人に、満足度の高い医療を行うよう努めます。

## 病院の基本方針

1. すべての病める人々にまごころをもって臨みます。
2. 安心して質の高い医療を実践します。
3. まわりの医療機関と協力し合います。
4. 高い技能を持つ心豊かな人材を育成します。
5. より幸せとなる医療を求めた研究を推進します。

## 患者さんの権利

当院は、すべての患者さんには、以下の権利があるものと考えます。

これらを尊重した医療を行うことをめざします。

1. ひとりひとりが大切にされる権利
2. 安心して質の高い医療を受ける権利
3. ご自分の希望を述べる権利
4. 納得できるまで説明を聞く権利
5. 医療内容をご自分で決める権利
6. プライバシーが守られる権利

## 小児患者さんの権利

当院は、すべての小児の患者さんには、以下の権利があるものと考えます。

これらを尊重した医療を行うことをめざします。

1. こどもが最善の治療を受けて生きる権利
2. こどもが暴力から守られる権利
3. こどもが能力を十分に伸ばせるような医療を受ける権利
4. こどもが自分の診療について自由に意見を述べる権利

連携医療機関からの各種問い合わせ

救急センター・中毒センター：049-276-1199  
地域医療連携室（カルナ・FAX 紹介）：049-276-1876  
番号案内：049-276-1111

医療福祉相談室（退院調整）：049-276-2119  
セカンドオピニオン受付：049-276-1121



## 埼玉医科大学病院 地域医療連携ニュース（8号）

発行：埼玉医科大学病院  
発行責任者：織田 弘美  
編集：埼玉医科大学病院広報戦略委員会  
編集責任者：篠塚 望  
電話：049-276-1876 地域医療連携室  
住所：埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38  
発行日：2020年1月1日

※掲載している写真等は、関係者の同意を得ています。